

# 報告 被災自治体の安全衛生の実態

## 被災地における学校の現状と課題

日本教職員組合

向明戸 静 子

表1 岩手沿岸の小学校の保健室から

【A校】2011年度 [在籍 205人]

月	授業日	来室総数	一日平均	内科	外科
4	3	2	0.7	1	1
5	19	117	6.2	81	36
6	22	75	3.4	36	39
7	16	36	2.3	21	15
8	10	29	2.9	13	16
9	20	39	2.0	28	11
10	20	53	2.7	28	27
11	20	117	5.9	41	76
12	16	58	3.6	32	25
1	10	43	4.3	19	24
2	21	112	5.3	65	47
3	11	31	2.8	14	17
計	188	712	3.8	378	334

2012年度 [在籍 199人]

月	授業日	来室総数	一日平均	内科	外科
4	17	114	6.7	79	35
5	21	136	6.5	68	68
6	21	117	5.6	58	59
7	19	91	4.8	59	32
8	9	92	10.2	65	27
9	19	241	12.7	110	131
10					
11					
12					
1					
2					
3					
計	106	791	7.5	439	352

### 被災地における学校の現状と課題

東日本大震災から早二年が経とうとしています。津波の傷跡が今なお残る被災地。一方で、報道されるのは、元気な人々の姿。被災地では、いつでも元気であることを求められているのです。

学校も、施設も環境も整わず、非日常が続いている中、被災前と同じであることが求め

られます。悲しい、つらい気持ちをぐっと飲み込み、元気であることを求められた—その反動は、子どもたちの体の不調に表れています。不眠、疲労、不安を背景に、頭痛、腹痛、気持悪さを訴える子どもたち、怪我をする子どもたちが増えました。岩手県沿岸のA小学校の保健室来室数(表1)で見ると、被災一年目よりも二年目にあたる二〇一二年度のほうが多くなっています。